

## 岡山県木材加工技術センター 試験研究課題事後評価票 (結果)

番号	20-1	課題名	県産針葉樹材の材質特性および構造部材としての強度性能評価	
期間	17~19年度	担当研究員名	小玉 泰義	

評価項目	評価の視点	評価結果
目標達成度	5 : 目標を大きく上回って達成した。 4 : 目標を上回って達成した。(3人) 3 : 目標どおりに達成した。(3人) 2 : 目標を下回った。 1 : 目標を達成できなかった。 【平均 3.50】	4
有効性	5 : 見込みを大きく上回る効果があった。(2人) 4 : 見込みを上回る効果があった。(1人) 3 : 見込みどおりの効果があった。(3人) 2 : 見込んだ効果を下回った。 1 : 効果が得られなかった。 【平均 3.83】	4
	5 : 当初目的以外に著しい成果が得られた。 4 : 当初目的以外の成果が得られた。(5人) 3 : 当初目的以外の成果は特になかった。(1人) 【平均 3.83】	4
効率性 ・ 妥当性	5 : 費用対効果の面で極めて優れていた。(1人) 4 : 費用対効果の面で優れていた。(3人) 3 : 費用に見合った効果が得られた。(2人) 2 : 費用対効果の面で問題があった。 1 : 費用対効果の面で大きな問題があった。 【平均 3.83】	4
	5 : 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4 : 計画より優れた手法等により実施された。(2人) 3 : 概ね計画どおりに実施された。(4人) 2 : 計画どおりに実施できなかった。 1 : ほとんど計画どおりに実施できなかった。 【平均 3.33】	3
成果の活用 ・ 発展性	5 : 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も可能性はある。(1人) 4 : 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。(4人) 3 : 技術移転、実用化等の可能性がある。 2 : 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1 : 技術移転、実用化等の見込みが低い。 【平均 4.20】	4
総合評価	5 : 著しい成果が得られた。(2人) 4 : 十分な成果が得られた。(2人) 3 : 一定の成果が得られた。(2人) 2 : 見込んだ成果を下回った。 1 : 成果が得られなかった。 【平均 4.00】	4

## 助言・指摘事項等

- 地道であるが、極めて重要である。最新式の機器を導入し、多量のデータを集積することに成功している。
- 岡山県産のスギ、ヒノキ、アカマツについて構造用部材としての強度性能を評価する目的から、これまで強度データとして不足していた横方向の強度を実大材を対象に調査した極めて貴重な研究である。研究に対して指摘することは特にないが、研究者のこれまでの研究成果をも含めた岡山県産針葉樹材の強度特性に関する基礎データの技術移転については、今後、研究者自身による努力はもとより、行政機関による積極的な支援が望まれる。
- 耐久性、強度計算等の観点から、丁度、時宜を得た研究成果として評価したい。
- 木材の強度をデータ化→実用化等に繋がる研究ではないと思われるが、建築関係者等へデータ・情報はぜひとも知らせてほしい。そうすることにより、県産材の信頼性が増すと思われる。
- 設計者等へデータを広く公開し、活用すべきだ。

(評価項目) 5~1までのいずれかを記入 (総合評価) 評価項目を総合的に勘案し、5~1までのいずれかを記入

## 岡山県木材加工技術センター 試験研究課題事後評価票(結果)

番号	20-2	課題名	保存処理木材の品質確保を目指した処理技術に関する研究	
期間	17～19年度	担当研究員名	金田 利之	

評価項目	評価の視点	評価結果
目標達成度	5 : 目標を大きく上回って達成した。(1人) 4 : 目標を上回って達成した。(2人) 3 : 目標どおりに達成した。(3人) 2 : 目標を下回った。 1 : 目標を達成できなかった。 【平均 3.67】	4
有効性	5 : 見込みを大きく上回る効果があった。 4 : 見込みを上回る効果があった。(3人) 3 : 見込みどおりの効果があった。(3人) 2 : 見込んだ効果を下回った。 1 : 効果が得られなかった。 【平均 3.50】	4
	5 : 当初目的以外に著しい成果が得られた。(1人) 4 : 当初目的以外の成果が得られた。(4人) 3 : 当初目的以外の成果は特になかった。(1人) 【平均 4.00】	4
効率性 ・ 妥当性	5 : 費用対効果の面で極めて優れていた。 4 : 費用対効果の面で優れていた。(5人) 3 : 費用に見合った効果が得られた。(1人) 2 : 費用対効果の面で問題があった。 1 : 費用対効果の面で大きな問題があった。 【平均 3.83】	4
	5 : 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4 : 計画より優れた手法等により実施された。(3人) 3 : 概ね計画どおりに実施された。(3人) 2 : 計画どおりに実施できなかった。 1 : ほとんど計画どおりに実施できなかった。 【平均 3.50】	4
成果の活用 ・ 発展性	5 : 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も可能性はある。(2人) 4 : 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。(4人) 3 : 技術移転、実用化等の可能性がある。 2 : 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1 : 技術移転、実用化等の見込みが低い。 【平均 4.33】	4
総合評価	5 : 著しい成果が得られた。(1人) 4 : 十分な成果が得られた。(5人) 3 : 一定の成果が得られた。 2 : 見込んだ成果を下回った。 1 : 成果が得られなかった。 【平均 4.17】	4

## 助言・指摘事項等

- 効率的に屋外条件を再現出来る手法を開発した点が評価できる。
- 保存薬剤注入による木材の耐久性の延伸を図る目的から実施された研究課題であるが、優れた研究成果が得られている。今後の課題として、企業あるいは公共事業等への早急で積極的な技術移転が望まれる。
- 桧土台、白太含み材に関して、この研究成果は活用出来ると思うし、応用範囲は広いと思う。
- 実用的な研究であり、その成果は充分活用できると思われる。企業、メーカーへの情報提供を行っていただきたい。
- 林道・作業道の木組工法に活用を検討すべきだ。

(評価項目) 5～1までのいずれかを記入 (総合評価) 評価項目を総合的に勘案し、5～1までのいずれかを記入

## 岡山県木材加工技術センター 試験研究課題事後評価票 (結果)

番号	20-3	課題名	県産スギを使用した異樹種複合集成材の性能評価に関する研究	
期間	18~19年度	担当研究員名	野上 英孝	
評価項目	評価の視点			評価結果
目標達成度	5: 目標を大きく上回って達成した。 4: 目標を上回って達成した。(2人) 3: 目標どおりに達成した。(4人) 2: 目標を下回った。 1: 目標を達成できなかった。 【平均 3.33】			3
有効性	5: 見込みを大きく上回る効果があった。 4: 見込みを上回る効果があった。(4人) 3: 見込みどおりの効果があった。(2人) 2: 見込んだ効果を下回った。 1: 効果が得られなかった。 【平均 3.67】			4
	5: 当初目的以外に著しい成果が得られた。(1人) 4: 当初目的以外の成果が得られた。(5人) 3: 当初目的以外の成果は特になかった。 【平均 4.16】			4
効率性 ・ 妥当性	5: 費用対効果の面で極めて優れていた。 4: 費用対効果の面で優れていた。(5人) 3: 費用に見合った効果が得られた。(1人) 2: 費用対効果の面で問題があった。 1: 費用対効果の面で大きな問題があった。 【平均 3.83】			4
	5: 計画より大幅に優れた手法等により実施された。 4: 計画より優れた手法等により実施された。(2人) 3: 概ね計画どおりに実施された。(4人) 2: 計画どおりに実施できなかった。 1: ほとんど計画どおりに実施できなかった。 【平均 3.33】			3
成果の活用 ・ 発展性	5: 技術移転、実用化等の具体的見込みがあり、新たな展開も具体性がある。 4: 技術移転、実用化等について、今後の発展可能性が高い。(5人) 3: 技術移転、実用化等の可能性がある。(1人) 2: 技術移転、実用化等に向け今後の取組が必要 1: 技術移転、実用化等の見込みが低い。 【平均 3.83】			4
総合評価	5: 著しい成果が得られた。 4: 十分な成果が得られた。(6人) 3: 一定の成果が得られた。 2: 見込んだ成果を下回った。 1: 成果が得られなかった。 【平均 4.00】			4

## 助言・指摘事項等

- 私の専門から外れているので適切な意見でないかも知れないが、接着剤の選定を含め、接着条件について更なる検討が必要かと思われる。
- 地道な研究活動によってスギの集成材利用に向けた接着耐久性に関する基礎データが得られた。助言することは特はないが、今後、野外暴露試験の研究成果が明らかにされることを望みたい。
- 当地方でも杉を活用するには、複合集成材のことも考えて行かざるを得ない。その基礎になる貴重な研究と言えよう。
- 均一の製品を求めるならば集成材であろう。今後の成果、活用が期待できる。
- 研究課題の着目点は非常に優れている。

(評価項目) 5~1までのいずれかを記入 (総合評価) 評価項目を総合的に勘案し、5~1までのいずれかを記入